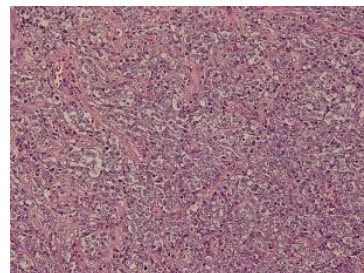


## 悪性リンパ腫

悪性リンパ腫とはリンパ系組織から発生する悪性腫瘍の総称ですが、2008年 WHO 分類第 4 版ではホジキンリンパ腫、B 細胞リンパ腫、T/NK リンパ腫の主要分類だけでも 50 種類以上に分類されています。それぞれの亜分類によって治療法、予後が異なるため、適切な治療のためにはリンパ節生検による病理組織学的診断、特に正確な亜分類の診断が必須です。リンパ節腫大は、悪性リンパ腫、リンパ腫以外の腫瘍の転移、反応性、などで起こり、リンパ腫の確定診断には生検が必要です。



当科ではリンパ腫が疑われ、生検が必要と判断した場合は速やかに外科・耳鼻科等の臨床各科に生検を依頼、病理部とも連携してできるだけ迅速に診断を確定できるよう心がけています。他の悪性腫瘍と同様、リンパ腫の治療においても分子標的薬などの新規薬剤が次々に導入され、治療成績が向上しています。また九州地方に多い成人 T 細胞白血病リンパ腫（ATLL）は造血器腫瘍の中でも特に悪性度が高く難治性の疾患ですが、当院では治療開始後早期に積極的に同種造血細胞移植を行うことで良好な治療成績を得ています。原因不明の発熱、リンパ節腫大などでリンパ腫が疑われる患者さんがおられましたら是非当科にご紹介下さい。

### 悪性リンパ腫の治療

悪性リンパ腫は他のがん種に比較して、放射線や抗がん剤が良く効きます。病気の範囲が狭い場合は化学療法（抗がん剤の治療）と放射線の併用療法、病気の範囲が広い場合は化学療法のみで治療を行うことが一般的です。ホジキンリンパ腫では ABVD 療法、非ホジキンリンパ腫では CHOP 療法が代表的な化学療法ですが、B 細胞リンパ腫の場合はこれにリツキシマブを加えた R-CHOP 療法が行われます。病気の種類や病気によって抗がん剤治療の内容、回数は異なりますが、通常は数ヶ月間に渡って治療を行います。最近では外来で抗がん剤治療を行うことも多くなっており、自宅で生活しながら治療が受けられるようになってきました。